

大会趣旨

地球規模の環境問題や都市・生活型公害などの環境問題の解決など、持続可能な社会を構築するための取組をあらゆる分野で推進することが急務となっている。学校教育においても、21世紀を生きる子どもたちに、環境問題等について正しい理解を深め、責任をもって環境を守るための行動がとれるような態度を育成するなど、環境教育の充実を図ることが重要である。

そこで、先進校の実践事例発表や講演を通して、環境教育推進上の成果や課題等についての研究協議や情報交換を行い、学校における環境教育の振興に資する。

また、特色ある優れた実践を行っている学校を表彰する平成23年度グリーンスクール表彰式をあわせて実施する。

日程

- 開 会 13:00
- 1 「グリーンスクール」表彰式 13:00~13:40
- あいさつ 兵庫県知事 井戸敏三
 - グリーンスクールフラッグ、表彰楯等の授与
 - 審査講評 グリーンスクール審査委員長 谷口文章
- 2 実践事例発表 13:40~14:40
- 「人も自然も笑顔いっぱいになる環境学習を目指して」
たつの市立小宅小学校
 - 「地域を知ろう（ため池観察）」
明石市立江井島中学校
 - 「地域とともに、環境改善～エコ・キャンペーン～」
兵庫県立尼崎西高等学校
- 休憩 —
- 3 講演 14:55~16:00
- 「学校教育と自然学習」
兵庫県立人と自然の博物館長 岩槻邦男
- 閉 会 16:00

谷口審査委員長 審査講評（案）

平成 23 年 12 月 16 日（金）

兵庫県公館大会議室

兵庫県では、平成 16 年度からグリーンスクールを表彰する取組が始まり、8 年目を迎えました。私も当初からその審査に携わっております。国をあげて地球規模での環境保全を推進する中、学校における環境教育が一層重要になっており、グリーンスクール表彰が行われることは大変意義あることだと思います。

この表彰は、地球規模で深刻化している環境問題に対する児童生徒の意識の高揚を喚起し、環境教育推進の動機付けになると思います。

今回、ご推薦いただいた取組の中には、自分たちの周囲の自然環境、地域の特性を踏まえた環境問題をテーマに、保護者、関係機関などと連携した地域社会あがりの体験活動に発展している取組が多くありました。自然と人とのつながりを体得し、豊かな感性を育むなどの人間教育として、これからの教育の方向性を示しているとも考えられます。

今回 26 校の推薦がありました。その中から 11 校をグリーンスクールとして選考しました。

小学校では、

- ①校区内に群生する希少種のエドヒガンザクラを保護するため、周囲の里山を含めて森と溪の景観の回復に取り組んでいる「川西市立陽明（ようめい）小学校」
- ②熊が町に現れ、人に危害を加える報道をきっかけに、調査・研究を行い、どんぐりを実らせることで、自然保全に寄与しようと取り組んでいる「三田市立すずかけ台（すずかけだい）小学校」
- ③鮎の放流や、大豆・小麦栽培、里山の観察、小麦の栽培、廃品回収活動等の活動を通して、河合の里の魅力を再発見する取組を行っている「小野市立河合（かわい）小学校」
- ④間伐、間伐材の活用、木工細工等の地域の活動に参加し、自然を守る大切さやこれからの課題などについて考える機会としている「赤穂市立有年（うね）小学校」
- ⑤うなぎの稚魚の放流、水生生物・サンショウウオ探し、魚釣り等の体験活動を通して、自然を守ることの大切さを学んでいる「香美町立小代（おじろ）小学校」
- ⑥廃棄物を利用した作品づくりなど体験的な学習を通して、ゴミやエネルギーに係る環境問題について意識を高める活動に取り組んでいる「朝来市立糸井（いとい）小学校」
- ⑦校区にオオムラサキの生育に適する大きなエノキの木があり、地域住民と児童が一体となって、オオムラサキの飛び交う町づくりをめざしている「篠山市立篠山（ささやま）小学校」の 7 校を選考しました。

中学校では、

- ⑧校区に国指定文化財の記念物「慶野松原」があり、地域の人とともに松の植林や「すくずかき」などを行い、松林の復元に取り組む「南あわじ市立御原（みはら）

中学校」の1校を選考しました。

高等学校では、

- ⑨琉球アサガオを用いた壁面緑化などの環境保全や、屋上ソーラーパネルによる自家発電、雨水を再利用する「グローバル・ダム」などの環境の創造に取り組む「兵庫県立尼崎北（あまがさききた）高等学校」
- ⑩日本固有の絶滅危惧種「チスジノリ」の調査や保護活動、希少生物「オチフジ」の栽培・組織培養による増殖などに取り組んでいる「兵庫県立上郡（かみごおり）高等学校」
- ⑪生徒が通学に利用する JR 駅及びその周辺の清掃や緑化活動、幼稚園・小学校やロータリークラブ等と連携した作物栽培などに取り組み、地域の中で環境教育を推進している「兵庫県立篠山産業（ささやまさんぎょう）高等学校」の3校を選考しました。

また、グリーンスクールの選考に漏れたものの、優秀な取組を進めており、今後の取組が期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として4校を選考しました。

- ①「海のゆりかご」と呼ばれるアマモについての調べ学習や、観察、栽培活動を通してアマモの群生の復活に取り組んでいる「明石市立谷八木（たにやぎ）小学校」
- ②校区に日本一ののじぎくの群生地があり、地域の方とともに、のじぎくを植え、育てる活動を行っている「姫路市立大塩（おおしお）小学校」
- ③自然環境の豊かな高岡の地域を守るために、里山の生き物観察、七種川水質検査、環境問題の調べ学習などに取り組む「福崎町立高岡（たかおか）小学校」
- ④洲本大浜・千本松が茂る美しい海岸や絶滅危惧種のカスミサンショウウオなど、地域の素晴らしい自然を知り、守っていこうとする「洲本市立洲本第二（すもとだいに）小学校」の4校です。

また、本年度の選考に惜しくも漏れた学校につきましても、審査委員会の委員と子ども、その活動に敬意を表するとともに今後の活動の充実に期待を寄せていますことも、併せて報告させていただきます。

私たちは、環境を介して将来の世代ともつながっています。子孫が、祖先と同じように地球環境の中で生き、その恵みで生活していくことができるように、「Think globally. Act Locally.」（地球規模で考え、足元から行動せよ）の言葉のとおり、児童生徒、学校や地域での具体的な取組こそが大きな成果につながるものです。

今後、この11校の活動が、兵庫県のグリーンスクールとしてさらに発展すること、そして、他の学校において、今の取組がさらに充実すること、ひいては兵庫県の環境学習・環境教育が推進されることを切に希望いたしまして審査講評いたします。